



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.35 2012.5

目次	
巻頭言 自分で確認し、考えることの大切さ	1
特集 マイライブラリの紹介	3
本との出会いを楽しむ<第9回>	7
図書館に関する話題<第9回>	8
Library News	9
図書館グループ紹介	10
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11

自分で確認し、考えることの大切さ

附属図書館長 長谷川 成一



近年、歴女ブームとかで、日本史なかでも戦国～安土桃山時代の武将に対する関心が高まっていると聞きます。若い人々が我が国の歴史に関心を持つことそれ自体は喜ぶべきことであり、日本史を専門としている私としては、歓迎すべきなのでしょう。しかし、ブームの火付け役となった、テレビドラマの時代劇などを見るたびに、不満に思うことが多々あります。それは、歴史的な事実が大きく曲げられるか、番組作成者の考えによって、歴史上の人物があたかもそのような人格・性格の人であったかのようなイメージが作られ、それが一人歩きする危険性があるのではないかと危惧されるからです。

戦国～安土桃山時代を舞台とするドラマのなかに登場人物として頻出するのは、なんといっても織田信長と豊臣秀吉でしょう。信長は冷酷非情な独裁者、一方の秀吉は明るく快活な天下人という図式が定型化しているように見えます。それはともかく、最近見たテレビドラマでは、ことさら秀吉の女性関係のだらしなさなどを強調しているよ

うに思われます。はたして、彼をそのようなイメージのみでとらえて良いのでしょうか。

確かに、秀吉が多くの女性を聚楽第や大坂城に抱えていたことは否定しません。秀吉自身が、当時、内大臣ないだいじんであった養子の豊臣秀次ひでつぐへ当てた、天正19年(1591)12月20日の書状(「本願寺文書」五)のなかで、秀吉のように「ちやのゆ(茶の湯)」「たかののたか(鷹野の鷹一鷹狩りのこと)」「めくるひ(女狂)」をしてはいけないと禁じ、この言いつけを厳守する旨を秀次に誓約させています。自分の姿を反面教師とせよという、秀吉の自信の強さと深さにも驚かせられますが、この箇所のみを切り取って秀吉のイメージを形づくるのは皮相であり、木を見て森を見ないのと同様です。

それでは、当時の人々は秀吉をどのように見ていたのか、彼の評判はいかなるものであったのか、同時代のしかも秀吉と敵対する側にいた人間に語ってもらいましょう。

当時、西国の大大名であった安芸国の毛利氏あきのくにと信長政権との交渉の仲立ちをしていた、毛利氏の

外交僧の安国寺恵瓊^{あんこくじえいけい}という人物がいました。彼は、信長が斃^{たお}れる10年前に、信長がいずれ転落し家臣の羽柴秀吉が躍進すると予想した（『大日本古文書 吉川家文書』^{きつかわげ}一）人物として有名です。毛利氏と信長政権との合戦が継続している間でも、両者はコンタクトを持ち、その交渉役を担ったのが恵瓊と秀吉でした。したがって、恵瓊は秀吉の比較的若い時から彼の人となりを知る立場にありました。



豊臣秀吉画像 絹本着色 江戸時代 堺市博物館蔵

褐色がかった唐冠をかぶり、白直衣を着た姿に描かれている。秀吉の画像は、たいてい背景や上部の幕を描きこんであるが、本画像は上座に座すのみで背景も幕も描かれておらず珍しいものである。

天正10年(1582)の本能寺の変の後、明智光秀について柴田勝家などを討って、秀吉が天下人への道を歩み始めたころの天正12年正月11日、恵瓊が毛利氏の重臣へ当てた書状（『大日本古文書 毛利家文書』三）があります。それには秀吉の人物像が、次のように記録されています（意識して紹介します）。

①信長の配下にあった時でも、秀吉は評判が高く世間を動かすのも上手であった。

②秀吉は、実際の戦闘にも加わり、城攻めなどの実戦にも優れた才能を発揮した。

③些細なことでも、徹底的に調査する情報収集能力に長けていた。

④秀吉は口先だけで出世するような人物ではない。

⑤日本を手中にして、政権運営においては名人の域にある。

⑥このような人物を相手とする戦いでは、我ら（毛利氏）の勝利はおぼつかない。

加えて、恵瓊は天正11年(1583)9月16日の書状（『大日本古文書 毛利家文書』三）において、秀吉の動員人数は膨大であり、手柄をたてた者には篤い報奨で報い、軍勢はスピード感にあふれ、潤沢な軍資金と物量を持ち、秀吉は戦略に優れ将兵の掌握は的確である。これと比較して毛利氏はその対極にあつて、秀吉に敵対できるような状態にないと嘆いています。

以上のように、秀吉に直接対面して、長年交渉に当たった恵瓊という同時代人の証言は、秀吉の武人としての卓抜した軍事的才能と周到な情報収集能力、政権経営の確かさなど、多くの人々を魅了する力にあふれ、深い信頼を寄せるに値する人物であったことを示唆しています。このように、実際に資史料に当たって確認してみると、現代のマスコミが作り上げたイメージがいかに危ういものであるのか、新入生の皆さんにはお分かりいただけたのではないのでしょうか。

他者からの情報も大切ですが、大学においては、理系・文系を問わず、自分で資史料を搜索して内容を確認し、それに基づいて自ら組み立て考える力を養うことが肝要だと思います。

(はせがわ せいいち)